

# 関西電力

モルディブで太陽光発電プロジェクト「デイフシ・ソーラーアイス・プロジェクト」を実施  
 デイフシ島に太陽光発電設備を設置し電力供給



太陽光発電設備の設置イメージ(外観)

関西電力は持続可能なエネルギー開発への貢献を目的に、モルディブで太陽光発電プロジェクト「デイフシ・ソーラーアイス・プロジェクト」(太陽光発電と既設ディーゼル発電機のハイブリッドシステム)

ム)を実施する。

同プロジェクトはモルディブ政府からの協力要請に配慮、同国のデイフシ島(人口・約1200人、島の総電力需要120キロワット程度)に出力40キロワット(10キロワット×4ユニット)の太陽光発電設備を設置し電力供給を行うもので、今年9月の着工、来年1月の運転開始を予定している。

現在、デイフシ島の電力はディーゼル発電機によって供給されているが、同プロジェクトにより島の電力需要の3分の1以上が太陽光発電から供給されることになる。このため、天候により発電量が変動した際の電力システムの安定化が課題となったことから、同プロジェクトでは島の主要産

業である漁業に必要な製氷機を設置し、太陽光による発電が増えた場合は電力を製氷に使用することで太陽光発電の最大限の活用と電力の安定供給を図る。

## 他の島々への太陽光発電導入先行事例に

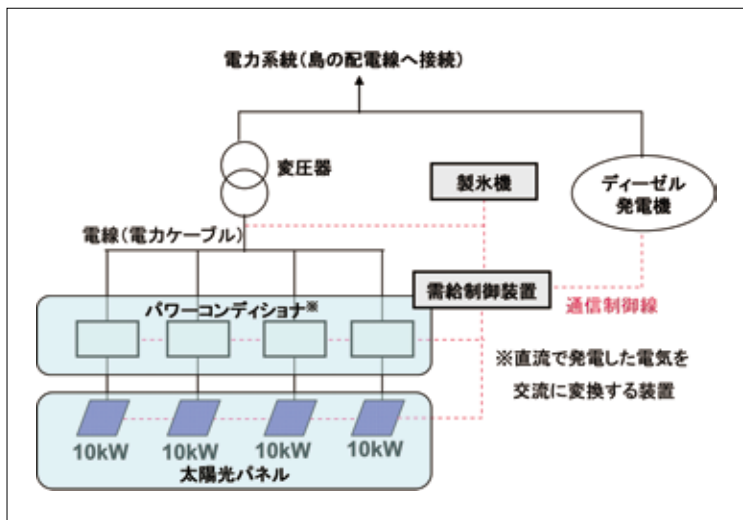
インド洋に浮かぶモルディブは1200もの島々で構成される群島国家で、他の島々でも同国とアジア開発銀行などが太陽光発電の導入を進めることを計画しているため、同プロジェクトはその先行事例となることが期待されており、プロジェクトにより得られた知見やノウハウなどの成果は今後、アジア開発銀行の支援を受けたセミナーなどを通じて、同国の電力関係者に伝達されるという。

なお、同プロジェクトは1992年4月にG7加盟国の主要な電力会社(当時5カ国7社)が集まり創設されたGSEP(Global Sustainable Element

electricity Partnership、持続可能なエネルギー開発や気候変動問題など電気事業に関するグローバルな課題について検討・協力する世界電力首脳有志の会、現在12カ国14社で構成)の開発途上国支援プロジェクトとして進められるもので、資金の一部を外務省の「草根・人

された制度、開発途上国で活動しているNGOなどが現地で実施する比較的小規模なプロジェクトに対し在外公館が中心となって資金協力を行うもの)から得ることとしており、日本、モルディブ両政府と関西電力による官民連携プロジェクトとして推進される。

間の安心保障 無償資金協 力(政府開発援助の一環として途上国の多様な援助ニーズに 応えるため1989年度から導入



ハイブリッドシステムの設置イメージ図